



086-245-4343
相談電話 24時間いつでも シミジミ

岡山県民の電話



写真 岡山県瀬戸内市

波音を聴きながら

斎藤 恵子

白く美しい建物の窓は
みな海にむかって開かれている
空はいま雲ひとつない

世界はわたしひとりのためにある

そんなことはないけれど

わたしはたしかにここにいる

波音を聴き

小舟のいくのを見ている

幾年も前にも

やはりだれかが

海を見て

空を見あげたことを思う

遠くを見つめることは

じぶんのところを見つめること

海を見ていると

失うものがなにもないような気がする



「誰もが自殺に追い込まれることのない “生き心地の良い岡山”を目指して」

2018 年 11 月 17 日（土）オルガホール（岡山市北区）

NPO法人自殺対策支援センター ライフリンク代表
清水 康之氏

生き心地のよい社会の切り口は自殺対策推進

私は元NHKの報道ディレクターでした。2001年に番組制作の中で自死遺児の学生たちと出会い、それをきっかけに自殺の問題に社会全体で対策を進めていこうと2004年にNHKを辞めライフリンクという団体を立ち上げ、自殺対策への取組みを進めてきました。

今日のテーマですが、誰もが自分自身の人生に意味を感じながら生きることができる社会を私たちは生き心地のいい社会と呼んでいます。その実現に効果的な切り口として自殺対策を推進していくこと、それがテーマです。

今、地域の現場で起きる問題は複雑化、複合化しています。例えば8050問題。引きこもっていた子どもが今50代になり、親御さんたちは80代になっている。問題が息子の引きこもりだけだったのが、親の介護、年金暮らしの生活困窮、自立を促す親と自立できない苛立ちの息子との親子不和など複合的になり、それが深刻化したとき、殺人や心中や自殺になったりするわけです。

地域のネットワークがいのちを守る

こうした問題の対処には、課題を抱えている人を、あるいは家族を丸ごと支えていくことが必要になってきます。子どものリストカットも、父親の暴力、母親の精神疾患からの自殺未遂などが背後にあり、子どもの支援だけでなく、親への支援、親子間の関係改善もあわせてやっていかなければなりません。

すなわち自殺対応の地域のネットワークを築くことが、他の問題にも対応できることになるはずです。そして関係機関が連携出来る地域では、住民の暮らしの質や住民の命を守ることができている。連携できない地域は結果として、住民の暮らしの質が悪化し、住民の命も守ることが出来なくなっています。

そうした中で自殺対策を進めていくことが結果として、地域住民が抱える様々な悩みや課題に向き合うことができる地域のネットワークを築いていく絶好の切り口になるということです。

自殺させられた中学生

自殺の問題を象徴するある事件の紹介をします。3年ほど前、東京都の西東京市に住む中学2年

生14歳の男の子が自殺で亡くなり、その父親が自殺教唆の容疑で逮捕されたという事件です。

逮捕された父親は実の母の再婚相手、継父です。中学生が亡くなる2年ほど前に結婚し、殴る蹴るの暴力が始まりました。亡くなる半年ほど前には継父は中学生を軟禁状態にし、トイレも食事も監視下に置き、さらに携帯電話のカメラで女性の下着を身に着けさせた姿を何枚も撮るのです。屈辱的です。父親は母親に暴力をふるい、母親も中学生に暴力をふるい、最後には継父は中学生に「24時間以内に首でも吊って死んでくれ」といった。実際に24時間以内にその中学生が首を吊って亡くなりました。ニュースでは「中学生が自殺で亡くなり、その父親が自殺教唆の容疑で逮捕された」と。私は強い違和感を覚えました。

自分の命を守れない過酷な背景があり、それに目を向けていかないと彼の死の本質を捉えることはできない。その子は自殺させられたと思います。継父が問われるべき罪は、本来であれば自殺強要であるべきと私は思います。彼にわずかでも生きる道とその選択肢が残されていたら生きたでしょう。

自殺に至るには規則性がある

日本で自殺者の多くはもう生きられない、死ぬしかないという状況に追い込まれて亡くなっています。

私たちは自殺に至ったプロセスに焦点を当てながら自殺の実態調査分析を行いました。自殺者523人について遺族の方から聞き取りをする形で調査分析をし、分かったことがあります。そのうちの1つは失業者、労働者、自営業者、学生といった職業や立場によって自殺に至るプロセスに一定の規則性があるということです。

例えば失業者。収入がなくなると、まず家族友人から金を借りる。生活保護を利用せず、消費者金融から金を借り、返済金を別の消費者金融から借り多重債務を抱えるようになる。取立ては厳しくしかし仕事は見つからずうつ状態に陥りそれでも事態が改善しない、その時に自殺に追い込まれていく。失業者、無職者の人が辿りやすい典型的な危機経路です。

働く人、労働者の場合は職場環境の変化から過労になったり仕事に失敗したり人間関係の悪化する中で追い込まれて自殺に至る。主婦は子育ての悩み、夫の暴力、夫婦の不和から離婚になり生活が落

ち精神的にも追い込まれ自殺に至る。学生や子どもの場合は閉ざされた人間関係の中にいるのでいじめで自殺に追い込まれることがあります。

自殺は追い込まれた死

自殺の最初の悩みというのは失業、連帯保証債務、犯罪被害、配置転換、昇進、職場のいじめ、事業不振、介護疲れ、解雇、育ての悩み、DV、身体疾患、体を壊す病気などです。

抱えた問題が悪化し、別の問題を引き起こし、その問題がまた更に悪化しと問題が連鎖する中で自殺が起きている。自殺はその多くが追い込まれた末の死であるということです。

大きな経済的な問題が、仕事や暮らしの問題に転嫁され、さらに家族や心の健康の問題に転嫁されて自殺が起きている。自殺の原因としてうつ病、精神疾患が挙げられます。自殺対策に取り組む上ではこのうつから自殺に至らないよう水際で食い止めることが重要な柱の1つになることは間違いありません。

ただ、うつ病というのは同時に他の様々な要因が連鎖した結果でもあり、自殺対策はこのうつ対策だけやっていたのでは不十分です。

考えなければならないのは背景に潜む問題に手が打たれているのに、なぜ自殺の危機経路が進行してしまうのか。なぜ自殺に追い込まれるという事態が起きてしまっているのかということです。

それはそれぞれの領域に留まっているからです。関係機関が連携して対応に当たらなければならない。点の取り組みだけでは上手くいかないということです。

自殺対策は生きる支援

私たちは遺族の方たちに200を越える項目の質問をし、その中に「自殺で亡くなったそのご家族は自殺で亡くなる前にどこかの専門機関に相談していましたか」という質問があります。

調査を行った523人のうち498人は相談したかどうかははっきりしていて、このうちの70%は亡くなる前に専門機関に相談に行ったと答えている。しかもこのうちの約6割、全体の44%は自殺で亡くなる1か月以内にどこかの専門機関に相談に行っていたと答えています。

自分で生きる道を模索した人達が自殺で亡くなっている。それはやっとの思いで辿り着いた窓口の対応が必ずしも適切ではなかった。あるいは複数の悩みや課題を抱えていながら辿りつけたのは1つの相談機関でしかなかったということです。

自殺対策というのは、当事者本人の生きる支援と捉えるべきだろうと思います。だれかがこの危機経路にはまり込んでしまったとしても、生きる道を選ぶように支援していくこと、自殺に追い込まれることのない最後の最後までその人が生きる道を選択できるそうした地域を作っていくということです。

去年は1日平均60人が自殺

日本の年間の自殺者数というのは1997年まで大体2万人台の前半で推移していました。98年に一気に年間ペースで8,000人以上急増して3万人を超えました。97年に証券会社や銀行の破たんが相次ぎ倒産件数が跳ねあがり、完全失業率が4%台になり社会状況は悪化し、自殺は急増したのです。

しかしその当時自殺は個人の問題とされ社会的な取り組みとして自殺対策が行われてこなかった。2007年国の指針が作られ2009年度に地域自殺対策緊急強化基金ということで地域で自殺対策を進めるための予算を国が確保しました。

2010年からは日本で例年自殺が増える3月を自殺対策強化月間に定めて全国的には相談会が開かれ啓発を進めるといったような取り組みが行われるようになった。

そうして日本の自殺者数2010年以降は8年連続で減少している。2010年から減少にあるというのは自殺対策の広がり、自殺しないで生きる道を選ぶ人が増えた結果だと思います。

とはいえ日本では平成に入ってから80万人もの人が自殺で亡くなっています。

去年の年間自殺者数21,321人、1日平均60人です。非常事態は続いているという認識を持つ必要があります。支援を必要としている大勢の人たちがいる、そこに私たちは足場を置いて対策を進めていく必要があるのです。

岡山県は交通事故の死亡率が全国4番目に高く、交通事故で亡くなった方が昨年97名、1昨年79名でした。でも自殺で亡くなる方たちはその3倍くらいいます。しかも過去10年間で見ると、岡山県在住の3,500人が亡くなっていらっしゃいます。

若者は毎日7人自殺している

日本は自殺大国と言われて2010年の比較では世界で5番目に高い。日本の自殺の特徴の1つが40代から60代男性によるものが多く、全体の約35%を占めています。また、若年世代の自殺も深刻です。10代後半20代30代の死亡原因の第1位が日本では自殺という状況です。主要先進7か国で日本だけです。

しかも20代に関しては、亡くなった全体の半数が自殺です。私が計算しましたが、去年の10月から先々月9月までこの12か月間で29歳以下の若者が自殺で毎日7人亡くなり続けている。自死遺族の方は全国で毎年10万人くらいずつ増え続けている。全国には300万人いると推計されています。実に40数人に1人が家族を自殺で失くしているということです。

地域によって特性や年代が異なります。地域で見ると、東京都新宿区では若年層が多く、秋田県由利本荘市では70歳以上が多い。職業で見た時、愛知県豊田市の特徴は労働者の自殺が多く、京都市左京区ここは学生生徒の自殺が多い。ですから全ての自治体で同じ対策を行っても上手くいかない。悩みや課題、地域の実態を分析し、それに基づいて関係機関が連携をしていく必要があるということです。

ネットワークの強化と「つなぎ役」の配置

2009年から東京の足立区と私たちライフリンクが連携をして進めてきた自殺対策のモデル作りがあります。

まず、1つは地域のネットワークの強化です。足立区長とライフリンク代表である私と足立区の衛生部とで開いている会議で、足立区における自殺対策の戦略を決定します。ここで決定した自殺対策の戦略は速やかに庁内連絡会議で共有し、全庁的な取り組みとして対策を進められる体制を組んでいます。そして地域の様々な関係機関を巻き込んだ「足立区こころといのちの相談ネットワーク」を構築しています。自力でそれぞれの窓口に行かなくても地域のどこか支援にたどりつけばそこを入りに様々な支援が受えられるようなネットワークです。

ネットワークが機能不全に陥らないよう仕掛けを3つ仕込んでいます。

1つは関係窓口、あるいは関係機関の「つなぎ役」を配置したことです。つなぎ役とは、例えば福祉部の窓口で生活の苦しさを言い、「死にたい」と言われたらこころといのちの支援担当に応援を仰ぐ。こころといのちの支援担当は生活支援だけでなく寄り添う形で解決へ繋げていきます。

例えば女性のための相談機関に来た女性が借金の問題や生活苦の問題を抱えていたとします。そのときにもこころといのち支援担当に応援を仰ぐと、法テラスの制度を使えば弁護士さんに相談でき、生活保護が受けられなくても生活困窮者向けの自立支援相談といった具体的な支援策についてバックアップに入ってくれるのです。

支援を連携する中で包括的な支援を行うということが出来るわけです。これがネットワークが機能不全に陥らなくなった仕掛けの一つです。

「つなぎシート」の導入と研修

2つ目は「つなぎシート」を導入したことです。これは相談窓口が連携する際に使う共通の相談票です。ハードルとなるのが個人情報の問題ですが、相談者の方から相談に入る前に一筆頂き、同意の上で相談対応に入ります。

先ほどの例で女性のための相談機関にある女性が相談にきました。夫の暴力、借金、生活苦、3つを抱えています。まず女性のための相談機関はシェルターに保護したことを書き、次に紹介先を予約し必要なら同行する。借金の問題は法律の専門家を書いて本人に渡す。と同時に相談窓口同士のやりとりをし「先日の女性、まだ相談にきていませんよ」となると、女性のための相談機関が「ご本人と連絡を取ってみます」と本人に連絡をして「解決しましたか」と問合わせをします。

つまりこのつなぎシートを使って相談員が次の窓口と繋がっているか確認し、繋がっていなければ1回繋ぎ直すために使うのです。次に繋ぐ時が、支援が途切れるリスクが最も高まるときでもあるからです。

解決のプロセスに乗ると、この「つなぎシート」が相談者の支援に関わった全ての相談員にフィードバックされます。相談員は自分が繋いだから良かった、人の命が守られるということでモチベーションが上がり、連携が深まり機能不全に陥りにくくなるのです。

3つ目の仕掛けというのが「ゲートキーパー研修」、人材育成です。職員に足立区の自殺対策の戦略に対して理解して頂き遺族の体験談も聞いて頂く。初級、中級、上級とあり、初級については3,500人の職員と民生委員さんも全員研修を受け終わっています。このネットワークに関わる相談機関の相談員の多くも受け、同じ研修で呼吸を合わせる状況ができていますということです。

相談できる受け皿作り

足立区においては中高年の男性の失業者、無職者の自殺が多かったので、そうした人が抱え込みがちな生活苦、多重債務、うつ、家族の問題、アルコールの問題などに対応するための相談機関、専門家、ハローワーク、福祉事務所、保健所が連携をして相談会を開いています。1か所でいろんな悩みや課題を相談できる受け皿を作っています。中高年男性も足を運びやすいハローワークの上の階で年間30日間やっています。

啓発にも力を入れています。広報誌の一面トップの掲載や図書館でパネルの展示、また女性向けのカード型のリーフレット作ってトイレとか授乳室エレベーターの中にクリアファイルを置いて誰にも見られずに手に取ってもらえる工夫をしたりしています。

子ども向けにはSOSの出し方に関する教育を全ての公立小中学校でやっています。子供が抱えやすい悩みとそれに対応する様々な相談機関が載っている啓発用のカードを配ります。

中高年男性に関しては全国よりも20%減っています。連携を組み、相談に来やすいところはどこか、相談会の告知はどうすればいいのか、ニーズを理解し関係者が連携して展開していくことをしています。

地域の相談機関や専門家や支援者、当事者が抱える悩み、そうした点と点をつなぎ形で連携を図っていきます。連携が深まればセーフティーネットの網の目が細くなり、地域の誰かにさえ辿り着けば生きる道を選ぶために必要な支援を受けることができる、そういう地域のセーフティーネットを、自殺対策を通して効果的に作ることができるということです。

網を大きくすると同時に網の目を細かくしていかなければなりません。それにより効率的、効果的で機能的なネットワークを作ることができるということです。本日は有難うございました。

(要旨 文責広報部)

2018年度決算報告及び 2019年度予算

(単位：円)

	摘 要	2018年度 決 算	2019年度 予 算
事業活動収入	事務費収入	5,000	10,000
	受講料収入	220,000	160,000
	自殺予防シンポジウム	62,500	0
	バザー	0	50,000
	研修参加費	126,000	100,000
	受託金	3,300,000	3,300,000
	地方公共団体補助金	300,000	250,000
	連盟補助金	244,023	0
	維持会費収入	2,304,000	3,000,000
	賛助会費収入	2,773,137	2,000,000
	その他寄付金 (共同募金他)	1,690,000	1,600,000
	運用収入	6,862	20,000
	雑収入	7,500	30,000
	収入計	11,039,022	10,520,000

2019年6月15日(土)今年度総会を開催し、活動報告・決算報告、活動計画・予算が承認されました

**期間限定 共同募金「ささえあいプロジェクト」
ご協力ありがとうございました**

2019年1月4日～2月28日の取り組みでは、皆様から903,936円のお振り込みがあり、新年度1,010,000円の助成金をいただきました。維持会員、賛助会員減少の中で貴重な資金源となっております。ありがとうございます。いっそう力を入れていきたいと思ひます。

岡山いのちの電話は講師派遣をしています。

岡山県の人権教育講師の登録もしています。学校、企業、団体などに「岡山いのちの電話」のスーパーバイザーが講師として参ります。わかりやすいと好評をいただいています。詳しくは事務局(086-245-4344)までお問い合わせください。ホームページもご覧ください。

(単位：円)

	摘 要	2018年度 決 算	2019年度 予 算
事業活動支出	給料	2,352,000	2,352,000
	賃金	720,000	720,000
	法定福利費	408,077	450,000
	研修費 図書	21,296	30,000
	研修費 養成講座	1,415,483	1,350,000
	研修費 継続研修	531,000	450,000
	研修費 全体研修	785,555	500,000
	研修費 自主研修	297,393	350,000
	自殺予防シンポジウム	363,609	0
	旅費・交通費	332,440	230,000
	備品費(含固定資産器具)	15,336	30,000
	印刷費	329,400	350,000
	一般物品費	31,389	50,000
	手数料	297,697	650,000
	通信費	246,905	250,000
	光熱水費	432,084	400,000
	会議費	0	20,000
	借料・貸金庫・会場費	15,552	20,000
	借料メンテナンス費用	885,826	800,000
	修繕費	41,040	50,000
	雑費	265,014	300,000
	連盟負担金	140,000	180,000
	市民公開講座	647,676	700,000
	保険料	87,882	100,000
	支出計	10,662,654	10,332,000
	事業活動収支差額	376,368	188,000
畜	退職給付引当資産支出	180,000	180,000
	当期収支資金差額合計	196,368	8,000

事務局日誌

2018年			
12月19日	講師派遣 倉敷西小学校(安原)	12月19日	寄付贈呈式 県民共済(堀井、草苺)
2019年			
1月13日	養成講座募集説明会(草苺、福田、斎藤)	3月21日	日本いのちの電話連盟理事会(堀井)
1月17日～18日	第34回全国青少年相談研究会東京(佐野)	3月21日	玉島ひょうたん会(草苺)
1月14日	日本いのちの電話連盟理事会(堀井)	3月27日	講師派遣 久米南町保健福祉センター(平松)
1月24日	おかやま被害者ネットワーク連絡会(草苺)	3月31日	広島いのちの電話30周年記念式(堀井、草苺)
1月31日	岡山県中央警察署協議会(草苺)	4月3日	寄付贈呈式 ㈱エムズ・ユー(佐野)
2月3日	養成講座募集説明会(草苺、福田、斎藤)	4月4日	第36期生養成講座 開講式・第1回講義
2月21日	岡山県地域自殺対策連携調整会議(草苺)	4月15日	会計監査
2月24日	講師派遣 津山市自殺予防セミナー(草苺)	4月12日	イオンギフトカード贈呈式(草苺)
2月25日	講師派遣 備北保健所(草苺)	5月7日	理事会(事業報告・決算)
2月27日	講師派遣 さんかくナビ(草苺)	5月24日	日本いのちの電話連盟定期総会、理事長・事務局長会議(堀井、草苺)
3月1日	早朝岡山駅前ティッシュ配り(中西、出石、草苺)	5月25日	全国事務局長研修会(堀井、草苺)
3月9日	第36期相談員養成講座面接 第35期相談員認定会議	5月22日	評議員会(事業報告・決算)
3月10日	理事会(事業計画・予算案)	5月22日	理事会(会長、副会長選定)
3月12日	総社市自殺対策連絡協議会(草苺)	6月14日	講師派遣 岡山大安寺中等教育学校(草苺)
3月14日	第35期岡山いのちの電話相談員認定式・迎える会	6月15日	岡山いのちの電話協会総会
3月19日	評議員会(事業計画・予算案)		

* 12月から6月まで毎月10日は自殺予防フリーダイヤルの相談を受けました。

健康問題の増加

中高年の男性の増加



総受信件数

18,365 件 (うち男性 9,763 件、女性 8,602 件)

自殺関連件数

1,728 件 (対受信率 9.41%)

(数値は全て統計部による)

1、男性 50代 60代の増加

総受信件数は前年 2017 年に比べ約 850 件減少し 18,365 件でした。男性件数は約 860 件減少し、女性件数は前年とほぼ同じでした。男女合計は 40 代 50 代が多く、それぞれ約 4,000 件ありました。(図 1) 男女比は 53% 対 47% で前年より女性の割合が増加していました。

最も多いのが 40 代男性、次いで 50 代女性、50 代男性でした。男性件数の減るなかで 50 代 60 代の男性はそれぞれ約 100 件増加でした。以前男性は 30 代 40 代が多かったのですが、今回は 30 代より 50 代男性件数が多くありました。

10 代 20 代の男性件数は減少傾向です。若い年代のなかには「公衆電話の掛け方がわからない」「固定電話で呼び出しはしたことがない」という人がいます。知らない人に掛けるのに戸惑う人もいます。でも大丈夫です。困ったときには「岡山のいのちの電話」に掛けてください。



2、家族問題の増加

問題別では、精神の健康問題が最も多く約 4,300 件ありました。ただ前年に比べれば約 250 件減少しています。

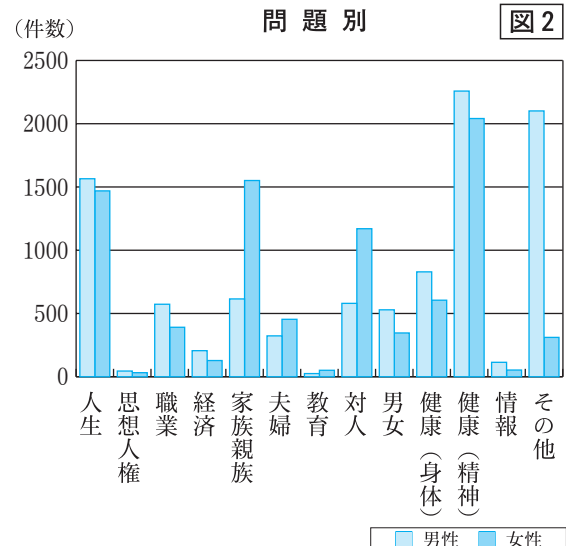
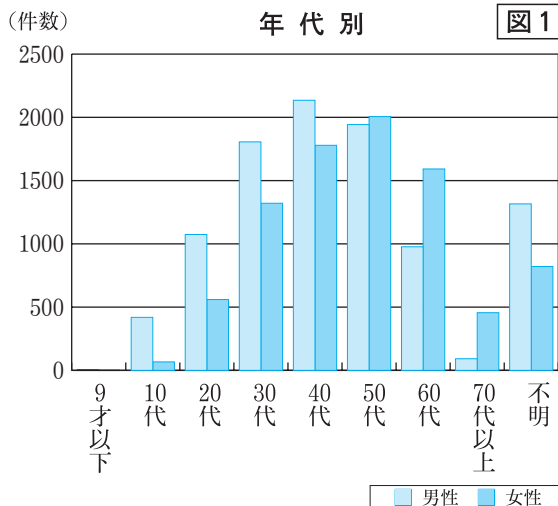
精神の健康問題で男女別には 50 代の男性が最も多く、次いで 40 代男性、50 代女性でした。全体として 30 代から 50 代が男女とも多い件数でした。

次の人生問題は男女合計で約 3,000 件、前年とほぼ同じでした。男女別では 50 代男性が最も多く次いで 60 代女性、50 代女性でした。男性は 10 代から 50 代まで、女性は 10 代から 60 代まで、年代を経るたび多くなっていました。人生の問題は年齢をとったから解決できるというものではなく、かえって年齢を重ねたほうがまた悩みも増えるということかもしれません。

3 番目に多い家族問題は約 2,200 件で女性が増え、前年に比べ約 200 件の増加でした。女性の 30 代から 70 代以上の年代はすべて増加でした。

その次の対人問題は約 1,800 件で前年に比べわずかに減少していました。その他では経済問題は件数が少ないながらも男女とも増加していました。

人それぞれにいろいろな悩みがあります。少し話して頂けませんか。お話しすることで気持ちが楽になることがあります。肩こりが同じところに力を入れているとできやすいように、同じことを自分のなかで堂々巡りで考えていると心もこってきます。ほぐしていきましょう。



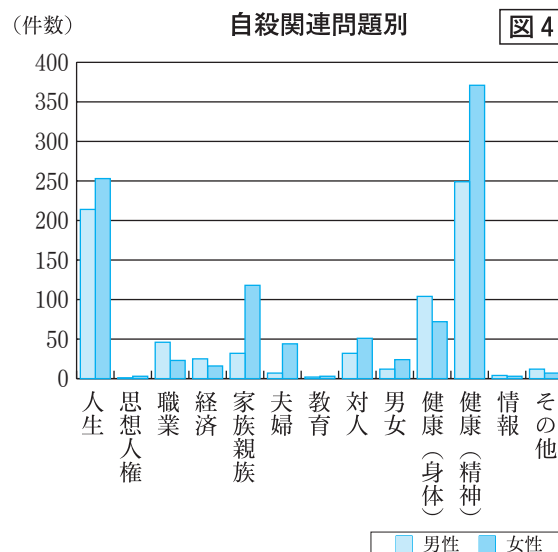
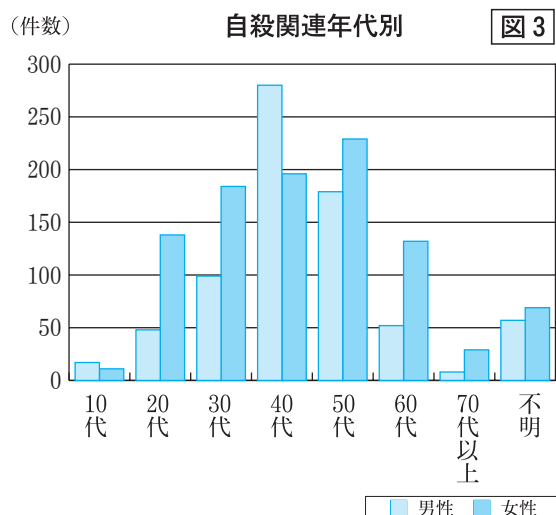
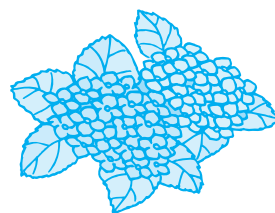
3、自殺関連は精神の健康問題が多い

自殺関連件数は1,728件、全体からみた自殺関連件数の率は9.41%で、前年とほぼ同様でした。件数は前年に比べ男性約50件、女性約120件の減少でした（図3）。女性の件数は1,000件近くで男性より多く、男女比は43%対57%でした。

年代別では最も多いのは40代男性、次いで50代女性でどちらも200件以上ありました。女性は10代から50代まで齢を経るごとに増加傾向でした。

自殺関連問題別では精神の健康問題が男女とも最も多く、次いで人生問題となりました（図4）。これは前年と同様です。精神の健康問題は前年に比べ女性件数が約140件減少でした。自殺に関連する人生問題、家族問題は男女ともわずかながら増加でした。

全体を通して考えたことですが、自殺関連について年代別の件数は毎年異なります。その時代や社会の様子によって変わっています。抱える悩みは自分だけで引き起こしたものではありません。話しているうちに気持ちが落ち着くこともあります。どうぞ岡山いのちの電話のダイヤルを回してください。



（文責 編集委員）

こちらは自殺予防いのちの電話です

毎月10日8時から11日8時は、全国のセンターが協力して、フリーダイヤルで相談を受けます。2018年の12日間、全国では28593件（内自殺関連は6459件22.6%）の相談がありました。岡山はその内897件を受け、自殺関連件数は229件（25.5%）でした。

☎ 0120-783-556

自殺予防フリーダイヤルがつながりやすくなりました

フリーダイヤルは2016年から、発信番号を非通知とする電話は受けていません。そのため通知の電話はつながりやすくなりました。発信番号が非通知の設定の場合は最初に「186」を付けて発信者番号を通知にしておかけください。

* 自殺予防フリーダイヤル
（AM8:00～翌AM8:00）

7月10日	8月10日	9月10日
10月10日	11月10日	12月10日

資金ボランティア大募集!!

あなたも、あなたのお知り合いも、職場の方も、職場も資金ボランティアになって支えて下さい

<維持会員>

個人	A 年 額	2,000円
	B	3,000円
	C	5,000円
	D	10,000円
団体	一口	10,000円 何口でも

お振込先

郵便振替 01260-4-15857 岡山いのちの電話
銀行振込 中国銀行大元支店 普通預金 1223257
社会福祉法人岡山いのちの電話協会 理 事 堀井茂男

<賛助会員>

折々に自由な金額でご寄付下さる方。
お誕生、お香典返しなど折々に頂けると幸いです。

<寄付金控除について>

- ・法人は、「特定公益増進法人」への寄付金として、一定金額内で損金算入ができます。
- ・個人は、「特定寄付金」として、支出寄付金額から2000円を控除した金額と総所得金額の40%の少ない金額の範囲内で寄付金控除の対象になります。

また寄付をした翌年1月1日に岡山市に在住の方は住民税の寄付金税額控除が受けられます。

0 予告 ▶ 岡山いのちの電話市民公開講座 「こころの力」開催

①7月21日(日)14:00~16:00

会場：ピュアリティまきび

講師：小鍛治 元慎氏 「今 大切なもの」

②9月1日(日)14:00~16:00

会場：ピュアリティまきび

講師：田中 圭一氏 「うつをヌケた人たち」

※入場無料ですが、事前申し込みを事務局までお願いします。

毎月11日は「幸せの黄色いレシートキャンペーン」で
レシート投函をお願いします

イオン岡山では岡山いのちの電話の投函BOXが設置され、マルナカ下中野店でも岡山いのちの電話が登録団体となっています。投函レシート金額の1%がイオン(株)から寄付されます。「岡山いのちの電話」は毎月11日岡山イオンで店頭活動をしています。ご協力をよろしくお願いします。

編 集 後 記

講演の清水康之さんの話にもありましたように、日本では平成になって約80万人が自死しています。いろいろな原因からで、どれもたやすく解決できない問題でしょう。でも、だからこそ話して頂きたいのです。すこしずつ気持ちがほぐれたらと思っています。

青葉の季節になりました。たゆまずこの活動を続けて参ります。ご支援のほどよろしくお願いいたします。(S)



共同募金のささえあいプロジェクトの
助成金をいただいています。

0 予告 ▶ 第36回いのちの電話相談員全国研修会 おかやま大会・第16回アジア太平洋地域 電話カウンセリング国際会議開催

「かけよう心をつなぐ橋」

日程：2019年10月24日(木)~26日(土)

主催：日本いのちの電話連盟、岡山いのちの電話協会

《大会1日目》10月24日(木)

会場：岡山プラザホテル

基調講演1「心のこと」黒住宗晴氏(黒住教名誉教主)

基調講演2「生きたいという気持ちを紡ぎ出す」

青木省三氏(慈恵病院精神医学研究所所長、
川崎医大名誉教授)

《大会2日目》10月25日(金)

会場：岡山国際交流センター、後楽園、長島愛生園、
邑久光明園 分科会・ワークショップ 18会場

《大会3日目》10月26日(土)

会場：岡山プラザホテル

シンポジウム「かけよう心をつなぐ橋~若者と
いかに繋がるか~」

英語講演「改正自殺対策基本法 地域自殺対策計画の策定」

反町吉秀氏(青森県立保健大学社会的包摂・
セーフプロモーション研究室)

海外からの参加者も迎えて、全国研修会と国際会議を同時開催します。700人の参加者を見込んで実行委員会では、内外のご協力をいただきながら全力で取り組んでいます。

発行 社会福祉法人 岡山いのちの電話協会

発行者 堀井茂男

編集 岡山いのちの電話協会広報部

事務局 岡山市北区上中野1-3-5 TEL 086-245-4344

FAX 086-245-7743

ホームページ <http://www.okayama-inochi.jp>